

福岡医発第 709 号 (地)

平成17年7月 8 日



各 医 師 会 長 殿

福 岡 県 医 師

会 長 竹 嶋 康



家族・地域・社会の絆フォーラムの開催について (ご案内)

～ボランティアのつどい・子どもすくすくフェスタ&日本親子の絆プロジェクト in ふくおか～

標記の件につきまして、ボランティアのつどい・子どもすくすくフェスタ福岡県実行委員会並びに福岡県地域福祉財団より別紙のとおり通知がありましたので、お知らせいたします。

つきましては、貴会におかれましてもご了知いただき、貴会会員へ周知方よろしくお願い申し上げます。

なお、本件に関するお問い合わせにつきましては下記へお願いいたします。

記

お問い合わせ先

財団法人福岡県地域福祉財団 振興課 藤崎

〒816-0804 春日市原町3-1-7 クローバープラザ 1階

TEL:092-582-2396 FAX:092-582-2415

Eメール:k2@fp-kikin.or.jp

<http://www.fp-kikin.or.jp>

小郡三井医師会より

担当理事 廣瀬真恵





「公印省略」



17福財第118号
平成17年7月1日

各 後 援 団 体 御 中

ボランティアのつどい・子どもすくすくフェスタ

福岡県実行委員会

委員長 中村 政子

財団法人 福岡県地域福祉財団

理事長 鈴木 廣

家族・地域・社会の絆フォーラム

～ボランティアのつどい・子どもすくすくフェスタ&日本親子の絆プロジェクトinふくおか～
開催のご案内

時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

福岡県地域福祉財団の事業推進にあたりましては、日ごろから格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、さきに、標記フォーラムへのご後援をお願いいたしましたところ、ご承諾いただき、誠にありがとうございました。

このたび、当フォーラム開催のご案内チラシを作成いたしましたので、別添のとおり送付いたします。

よろしくご査収くださいますようお願い申し上げますとともに、皆様へのご周知につきましてもご協力くださいますよう、併せてお願い申し上げます。

【お問い合わせ先】

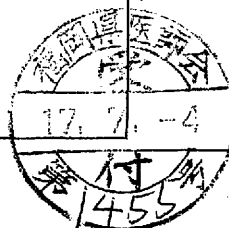
財団法人福岡県地域福祉財団 振興課 藤崎

〒816-0804 春日市原町 3-1-7 クーパ〖プラザ 1 階

TEL 092-582-2396 FAX 092-582-2415

Eメール k2@fp-kikin.or.jp

<http://www.fp-kikin.or.jp>



家族・地域・社会の絆 フォーラム



- ボランティアのつどい
- 子どもすくすくフェスタ
- 日本・親子の絆プロジェクト
in ふくおか



開催日 ● 平成17年9月18日(日)・19日(祝)

会場 ● クローバープラザ 福岡県春日市原町3丁目1番地7

来場予定者数 ● 約2万人

入場
無料

主催／ボランティアのつどい・子どもすくすくフェスタ 福岡県実行委員会 (財)こども未来財団
少子化への対応を推進する国民会議 (財)福岡県地域福祉財団

後援／厚生労働省、児童環境づくり推進機構連絡協議会、福岡県、福岡県教育委員会、福岡県市長会、福岡県町村会、福岡県社会福祉協議会、財団法人福岡県女性財団、社団法人福岡県私立幼稚園振興協会、福岡県保育所連盟、社団法人福岡県医師会、社団法人福岡県歯科医師会、社団法人福岡県看護協会、福岡県子ども会育成連合会、福岡県青少年団体連絡協議会、西日本新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、日本経済新聞社、NHK福岡放送局、RKB毎日放送、九州朝日放送、TNCテレビ西日本、FBS福岡放送、TVQ九州放送、fm fukuoka、福岡子育て応援マガジン 子づれDE CHA・CHA・CHA!、リトルママ、ドンナママ編集部、ママ大好き

特別協力／子育てライフを楽しむ情報誌「はっぴーママ 福岡版」

●お問合せ 「家族・地域・社会の絆 フォーラム」事務局 ☎ 092-582-2396 FAX 092-582-2415
(財団法人 福岡県地域福祉財団 振興課) 〒816-0804 福岡県春日市原町3-1-7 クローバープラザ1階

● 9月1

開催プログラム

少子・高齢社会の明日を 切り拓くキーワードは

家族・地域・社会の絆

少子・高齢社会。日本の将来について様々な予測がなされています。

人口の確実な減少と高齢化率の上昇。経済や社会の活力の低下。年金や保険の不安。家族の空洞化と地域コミュニティの崩壊。子どもの自立性や社会性の低下、等々。

このような厳しい課題と展望に対し、政府・自治体を始め国民各界各層において、様々な努力がなされています。その中で日本の未来を切り拓くキーワードの一つとして、「家族・地域・社会の絆」に注目できるのではないのでしょうか。

人は一人で生きていけないということは自明の理です。

人々の価値観は多様ですが、すべての人の個性が尊重され、共に支え合い、共に生きるという社会連帯の意識が、今改めて問われていると言えましょう。具体的にはコミュニケーションであり、ボランティアであり、ネットワークであり、地域コミュニティの新しい創造であると考えます。

福岡県地域福祉財団は、設立以来このようなミッションを掲げ、人々の善意をつなぎ、支えるため、様々な事業に取り組んできましたが、特にボランティア活動の深化、拡充を図るため、昭和61年から「ふくおかボランティアのつどい」を開催してきました。

また、平成12年からは地域での子育て支援の輪を広げるため、「ふくおか子どもすすくフェスタ」を開催してきました。

地域に根ざしたボランティアの生きた実践学習と交流の場となり、ボランティアの広域的なネットワーク形成に大きく寄与してきた「ふくおかボランティアのつどい」は、今年で20回の節目を迎えることとなりました。福岡県におけるボランティア活動の輝かしい歴史を刻む20年の歩みを確かめ、明日への新たな道標を掲げるため、ここに記念の大会を開催いたします。

そして昨年10月、全国7道府県の子育て支援財団の代表等が石川県金沢市につどい、子育て支援のための取り組みについて熱く語り合った「金沢ラウンドテーブル子育てサミット」を柱とする「日本・親子の絆プロジェクト いしかわの絆プログラム」が開催されました。その成果を受け継ぎ、少子化への対応を推進する国民運動のより一層の広がりを期するため、同プロジェクト及び次世代育成支援フォーラムを、今回の「ボランティアのつどい・子どもすすくフェスタ」記念大会の開催と併せ実施いたします。

オープニングパフォーマンス

開会式典 10:00~10:30 (大ホール)

● 主催者挨拶 ● 来賓挨拶

特別講演 10:30~12:00 (大ホール)

講師 **アグネス・チャン** (歌手・エッセイスト)

演題 **「みんな未来に生きる」**
(少子・高齢化社会へ)

ボランティアセミナー

セッション1 ボランティア活動の

福岡地区	箕原幸子	あしたばの会
筑豊地区	棟形和義	遠賀川川下り夷
北九州地区	水上 聡	築上高等学校
県南地区	石橋芳恵	育児ボランティア

セッション2 市民・行政・企業と

加留部貴行 (日本ボランティアコーディネーター)

セッション3 これからのボラン

早瀬 昇 (大阪ボランティア協会理事)

少子化に挑む 第1部

「子育て支援全国サミット」
13:15~16:30 (クローバーホール)

昨年、石川県で開催された「金沢ラウンドテーブル子育てサミット」の成果を受け継ぎ、児童環境づくり推進機構連合会、県の子育て支援財団の代表等が集い、子育てそして次世代育成支援のあり方について多

コーディネーター 鈴木一光 (児童健全育成推進財団)
出席者 こども未来財団、北海道青少年愛知公園協会、大阪府地域福祉推進協議会、香川県児童・青少年健全育成事

交流懇談会 18:00~20:00

「私が考える少子化対策」

● 賞: 大賞1点(賞金5万円)/入選3点(賞金各2万円)
表紙ページに掲載に郵送で応募。A4判400字詰め原稿用紙で印字。表紙に、タイトル、氏名(フリガナ)、年齢、郵便番号を明記。応募点数は1人1点。入賞作品の諸権利は主催者に帰属。
● 締切: 平成17年7月8日(金)必着

9月18日(日)・19日

広げよう 子育て支援の輪

10:00~15:00 (クローバープラザ全館)

● 子育て相談 ● いのちまるごと宝もの ● 0・1・2歳児
● すくすくライブ ● 赤ちゃんとのふれあい〜タツラ
● お母さんといっしょワクワク親子広場 ● ふれあい
● すこやか歯つばい君の部屋 ● 花でコミュニケー



ンス 9:30~10:00 (大ホール)

ール)

ール)

イスト)

ひと」
の提言)



13:15~16:30 (大ホール)

現場から

「高齢者のふれあいサロンを中心とした活動」

行委員会 「遠賀川河川敷の浄化活動」

Sクラブ 「高校生のボランティア活動」

ア 「障害児の託児活動」

の協働を考える

ター協会 副代表理事)

ティア

子育て支援のいま、これから

「テーブル子育てサミット」の成
絡協議会に参画する全国7道府
て支援の取り組みの現状と展望、
角的に論議を行います。



鈴木一光

団 常務理事)
育成協会、いしかわ子育て支援財団、
推進財団、ひろしまこども夢財団、
業団、福岡県地域福祉財団

アイデア公募中!

● 応募資格: 不問 ● 応募規定: 事務局宛(住所は
用紙2枚以内(縦書き)。ワープロ原稿は、20字×20
番号、住所、電話番号、性別、現在の職業または所属を
明記し、応募作品は返却しません。

参加
自由

子どもすすくフェスタ

会場 ●アイ・ラブ・アフリカ「ルワンダの子供達」
ニケアのすすめ ●おはなし広場
シャボン玉ショー ●おもちゃ病院 ●大道芸
・ショー ●親子の絆写真公募展 等



《次世代育成支援フォーラム》

独立行政法人福祉医療機構(子育て支援基金)助成事業

講演「少子化の現状と次世代育成支援対策について」(飯田)

厚生労働省 10:00~10:30 (大ホール)

少子化に挑む 第2部

「特別座談会」

“未来 子どもたちの輝く笑顔がいっぱい” 10:30~12:15 (大ホール)

子育て支援をタテ軸に、家族・地域・社会の絆をヨコ軸に、子育てに楽しみを持ち、
安心して子どもを産み育てることができる社会を展望して、今、私たちに求めら
れているもの、そしてこれから何をなすべきかを縦横に語り合ってください。

司 会 杉山 千佳 (育児ジャーナリスト)

出演者 奥山 佳恵 (女優・タレント)

大豆生田 啓友 (関東学院大学専任講師)

白石 真澄 (東洋大学 経済学部 助教授)

鈴木 光司 (作家)

少子化に挑む 第3部

「子育て親育ち シンポジウム」“子育ては楽しく” 13:15~16:00 (大ホール)

子どもを産むこと、育てることに不安を抱え、悩む母親の立場に立つて、産む力、
生まれる力、育つ力をどう生かしていくか、様々な角度から話し合います。

基調講演「子どもへのまなざし

～自分の命への感謝が、次世代の命を育む～」

講 師 佐々木 正美 (日本子どもNPOセンター常務理事・川崎医療福祉大学教授)

コーディネーター 山田 真理子 (九州大谷短期大学教授)

パネリスト 川端 強 (こどもの本の童話館グループ代表)

藤岡 佐規子 (北九州市保育所連盟会長)

古野 陽一 (子育てネットワーク研究会世話人)

吉永 陽一郎 (吉永小児科医院副院長)



佐々木 正美

福岡アピール 16:10~16:30

少子化への対応を推進する国民運動の一層の広がりを目指すため、
2日間にわたる議論を集約し、全国に向け福岡からのアピールを発信します。

参加申込方法

「家族・地域・社会の絆 フォーラム」の下記プログラムへの参加を希望される方(市町村ボランティア
連絡協議会を通して申し込まれる方は除く)は、往復はがきには、プログラム名、住所、氏名、電話番号
をご記入の上、事務局(住所は表紙ページに掲載)にお申し込みください。返信用はがきには、郵便番号、
住所、氏名を明記してください。1枚のはがきで1名の申し込みとします。なお、受付は先着順とし、
いずれも定員になり次第締め切ります。

- ◇ 特別講演 講師: アグネス・チャン(定員1100名)
- ◇ ボランティアセミナー (定員1100名)
- ◇ 子育て支援全国サミット (定員280名)
- ◇ 特別座談会 (定員1100名)
- ◇ 子育て親育ち シンポジウム (定員1100名)

つたえ育てようボランティア

10:00~15:00 (セミナールーム 他)

- 学生ボランティアパネルディスカッション
- 災害ボランティア情報広場

ふれあい広場

10:00~15:00 (グラウンド 他)

- 障害児者自立支援施設授産品フェア
- 食品バザー
- 企業ブース 等



出演者プロフィール (敬称略) (50音順)

profile

大豆生田啓友 (おおまうだ・ひろとも)

関東学院大学専任講師



1965年生まれ。青山学院大学大学院教育学専攻修了後、青山学院幼稚園教諭等を経て現職。専門は幼児教育学・保育学、子育て支援。臨床発達心理士。日本保育学会理事。NPO法人びーのびーの理事。10歳、4歳、2歳の子どもの父親。劇団ババフィーの団員。著書に「いま、幼稚園を選ぶ」(赤ちゃんともママ社)、「親たちが立ち上げた! おやこの広場びーのびーの」(ミネルヴァ書房)ほか。

加留部貴行 (かるとべ・たかゆき)

(特活)日本ボランティアコーディネーター協会 副代表理事・運営委員



昭和42年生まれ。平成2年、九州大学法学部卒業後、西部ガス(株)入社。学生時代からまちづくり活動に携わり、入社後も活動を継続。主に広報、人事、団体運営企画を担当。NPOふくおか事務局長を務め、平成13年10月、西部ガス(株)から福岡市市民局へNPO・ボランティア支援推進専門員として2年半派遣された。他に(特活)日本ファシリテーション協会理事・九州支部長、福岡市地域活動アドバイザーなど。福岡ソフトバンクホークスファン。

佐々木正美 (ささき・まさみ)

日本子どもNPOセンター常務理事・川崎医療福祉大学教授



1935年群馬県生まれ。新潟大学医学部卒業後、東京大学で精神医学を学び、カナダで児童精神医学臨床訓練を受ける。現在は現職のほか、横浜市リハビリテーション事業団参与、ノースカロライナ大学臨床教授。著書に「子どもへのまなざし」、「続・子どもへのまなざし」、「なやみはつきねんだなあ 相田みつを いのちのことは」などがある。

杉山千佳 (すぎやま・ちか)

育児ジャーナリスト



1965年福岡県生まれ。1989年、息子を出産。その後、育児雑誌のライターに。主婦の友社、風讀社、リクルート、NHK出版などで執筆。2000年に編集オフィス 有限会社 セレーノを設立。2002年、子育て環境研究所設立。子どもと家庭にやさしい社会環境づくりをめざし、子育て支援・次世代育成支援のコーディネイトを実践中。2005年5月、日本評論社より「子育て支援でシカカイが変わる」を発刊。セレーノHP: www.e-sereno.co.jp

鈴木光司 (すずき・こうじ)

作家



1957年浜松市生まれ。慶應大学仏文科卒業。1990年に「楽園」で日本ファンタジーノベル大賞優秀賞を受賞しデビュー。翌年の「リング」、続編の「らせん」(吉川英治文学新人賞)は若い層を中心に圧倒的な支持を得、「ループ」「パースティ」に続くシリーズも全てベストセラーに。映像化作品も大ヒットする。「光射す海」「アイズ」等の小説作品の他に、無名時代は二人の娘の育児をしながら小説修行をした経験から「家族の絆」等の子育てエッセイも執筆。

藤岡佐規子 (ふじおか・さきこ)

北九州市保育所連盟会長



京都女子専門学校保育科を卒業後、光沢寺保育園に入職。以後一貫して乳幼児保育に従事。現在、光沢寺第二保育園園長。国連婦人開発基金(ユニフェム)日本国内委員会北九州地域等委員会会長、北九州市女性史編集実行委員会会長、財団法人アジア女性交流研究フォーラム理事、同児童福祉施設等第三者評価委員会・同社会福祉審議会各委員等(以上、現職)。この間、全国社会福祉協議会全国保育士会会長、福岡県保育協議会副会長・同保育士会会長等を務める。著書に、「仲間たちへの定期便」「保育園の窓辺から…」などがある。

山田真理子 (やまだ・まりこ)

九州大谷短期大学幼児教育学科教授



広島大学教育学部心理学科卒業。京都大学大学院教育学研究科修士課程・博士課程修了。九州大谷短期大学幼児教育学科教授・認定NPO法人チャイルドライン「もしもしキモチ」代表理事など。専門は臨床心理学・幼児教育学。子どもの心の援助を身につけた保育士の必要性を訴え、保育心理士資格の設立に関わり、その養成のために全国的に活動。また、NPO法人「子どもとメディア」の代表理事をつとめ、乳幼児のメディア漬けに関する研究では内藤寿七郎賞を受賞。著書に、「機微を見つめる一心の保育入門」「子ども・こころ・育ち」などがある。

アグネス・チャン

歌手・エッセイスト



1955年香港生まれ。1972年に来日して、「ひなげしの花」で歌手デビュー、一躍アイドルとなる。1978年トロント大学卒業。1992年スタンフォード大学教育学部博士課程修了、P.h.D.現在、歌手活動の他、タレント、エッセイスト、大学教授、日本ユニセフ協会大使など、多方面で活躍。また、3人の子を育てながらボランティア活動にも従事。「みんな地球に生きるひと」「小さな命からの伝言」など著書多数。

奥山佳恵 (おくやま・よしえ)

女優・タレント



東京都生まれ。1992年、映画「喜多郎の十五少女漂流記」でデビュー。第16回日本アカデミー賞新人俳優賞受賞。2002年に結婚。同年6月には長男・空良くんを出産。現在は女優、タレントとして幅広く活躍中。育児と仕事の両立で忙しい日々を送っている。

川端 強 (かわばた・つよし)

こどもの本の童話館グループ代表



1948年、長崎県生まれ。1981年、長崎市に「こどもの本の専門店・童話館」を開店。以後、長崎から全国へ、絵本・こどもの本を宅配する「童話館ぶつくらぶ」を設立。現在、全国最大の配本ネットワークを形成。絶版になっている作品の復刊に取り組み、それを契機に、童話館出版を設立。絵本、家族などをテーマにこれまで160点余を出版。1999年、長崎市に「祈りの丘絵本美術館」を開館。二男一女の父。

白石真澄 (しろいし・ますみ)

東洋大学経済学部社会経済システム学科助教授



(株)西武百貨店、(株)ニッセイ基礎研究所 主任研究員を経て、2002年4月より現職。専門テーマは「バリアフリー」、「少子・高齢化と地域システム」、著書に「バリアフリーのまちづくり」、「都市観光でまちづくり」(編者)、「社会経済システムとその変革」(共著)、「新しい自治体の設計4」(共著)など。公職に規制改革民間開放推進会議委員、構造改革特区推進本部評価委員、少子化社会対策検討委員、社会資本整備審議会委員及び交通政策審議会委員など。

鈴木一光 (すずき・かずみつ)

児童健全育成推進財団 常務理事・事務局長



昭和22年生まれ。昭和47年明治大学法学部卒業。専門は児童館事業及び児童福祉。現在、上智社会福祉専門学校、宝仙学園短期大学等にて非常勤講師。平成11年より「テレビ寺子屋」講師。共著に「福祉心理臨床」、「保育年報1993」、「遊びの宝箱」など多数。

早瀬 昇 (はやせ のぼる)

大阪ボランティア協会 理事・事務局長



1955年大阪生まれ。1978年社団法人大阪ボランティア協会(1993年社会福祉法人に組織変更)に就職、1991年事務局長に就任。阪神・淡路大震災時には、全国の市民団体と連携し「被災地の人々を応援する市民の会」を結成。現地に一般市民公開型のボランティアセンターを開設。現在、大阪大学人間科学部客員教授、(特活)日本NPOセンター常務理事などを務める。主な著書に「元気印ボランティア入門」など。

古野陽一 (ふるの・よういち)

子育てネットワーク研究会世話人



子育てネットワーク研究会世話人、子なつ工房代表、NPO法人北九州子育て・親育ちエンバフメントセンター理事、乳幼児子育てネットワークひまわりスタッフ、北九州市若松区で、3歳、8歳、11歳の3人の子とたちと妻に恵まれ、幸せな日々を送っている44歳。が、第一子誕生時は重度の仕事中で、妻の育児ノイローゼ寸前に気付かなかった。第二子の誕生と前後して、妻が上記ひまわりの設立に関わりこれに追従、妻以上にはまる。世の中や子どもなどを考えると、常盤システムエンジニアをしている場合ではないと、第三子誕生時に会社にワガママ言って在宅ワークに切り替え、子育て関連の活動に励む日々。

吉永陽一郎 (よしなが・よういちろう)

吉永小児科医院副院長



福岡大学医学部卒業。久留米大学医学部小児科学教室入局。以後、久留米大学病院小児科、新生児科等に勤務。医学博士。平成6年、聖マリア病院に全国初の子育て専門診療科「育児療養科」開設。現在、吉永小児科医院副院長兼務。久留米大学医学部・筑紫女学大学・短期大学非常勤講師。福岡県久留米児童相談所嘱託医。主な著書に「子育てで、そばにいる人はだれ?」(メディカ出版)。